



## お母さんの請求書

校長 長谷川 豊

4年生の道徳の教科書に「ブラッドレーの請求書」というお話があります。  
ある日曜日の朝、朝食のテーブルに着いたブラッドレーは、お母さんの皿の横にいていねいにたたんだ一枚の紙切れを置きました。それは、お母さんへの請求書でした。

## &lt;請求書&gt;

お使い代	1ドル	留守番をした代金	2ドル
音楽のけいこに行ったごほうび	1ドル	合計	4ドル

お母さんは、その紙をポケットにしまい、何も言わずに静かに微笑みました。そして、お昼の食事のときに、ブラッドレーの皿の横に4ドルを置きました。ブラッドレーは大喜びしました。ところが、そのお金といっしょに一枚の小さな請求書がありました。それには、次のように書かれていました。

## &lt;請求書&gt;

大切に育てた代金	( )ドル	病気をしたときの看病代	( )ドル
服や靴代、おもちゃ代	( )ドル	食事代、部屋のそうじ代	( )ドル
		合計	( )ドル

お母さんの請求書には、それぞれいくらか書かれていたでしょう。これを子どもたちに予想させると、多くの子どもが5ドル、10ドル…と高額を書きます。

お母さんの請求額は0ドルでした。請求書を見たブラッドレーの目には涙が…。

私はこの話を読むたびに、なんてステキな親子だろうと感心します。自分の要求を紙に請求書という形で書き、丁寧に折り畳んだブラッドレーもなかなかのものです。それ以上に魅力的なのがお母さんです。にっこり笑うだけでその場では何も言いません。請求書という形で要求してきた息子の成長を喜んでるようにさえ感じます。

黙って息子の請求書に従ってお金を置く。そして、0ドルの請求書を添える。どこまでもゆとりをもって、優しく、厳しく、信念をもって。このお母さんには、子育てを楽しむ余裕が感じられます。叱ったり説教したりすることもなく、教え諭すこともなく、子どもに自分の行為への後悔を促し、母の無償の愛をいっぱい感じ取らせています。

私たちは、子どもの将来のことを考えて毎日仕事をしています。子どもの目線に立って、子どもの気持ちを考えて、授業や日々の指導をしてきたつもりです。しかし、目先のその場しのぎの対応・対処になってしまったこともあり、反省させられます。

私たち大人が目先の成果（結果）だけを求めると、子どもたちも目先のことだけを考え、私たち大人の顔をうかがうようになるかもしれません。「子どもは大人の言うとおりににはならないもの。大人のしたとおりになるもの。」名言だと思います。

小針小学校の教職員は、このお母さんのように子どもに共感し、子どもを尊重し、子どもの心に響く対応ができるように、平成31年も切磋琢磨していきます。